

Compass

日建協
日建協ホームページアドレス
<http://www.nikkenkyo.com/>

2008
September

Vol. **778**



●2008年度
日建協の活動&本部役員

ワークライフバランス
●WLBシャトルに乗って
次世代の若者が憧れる産業を目指そう!

●議長抱負

今こそ変えるとき。建設産業における
ワークライフ・バランスの実現に向けて

●第85回定期大会
一人ひとりの力の結集を時代の風に乗せて

●中期時短方針2008
ワークライフ・バランスの実現と、
心と体の健康のために

●契約内容の明確化と片務的体質の
改善による労働時間の短縮に向けて
公共工事における無報酬業務を解消するために

●トピックス

◇ワーク・ライフ・バランスをめざして
時短に取り組もう!

◇5分以内の早期対応が尊い命を救う!

◇新たな門出に熱いエールを!

◇ゼネコンの魅力を学生に!
◇スケールの大きさに感動!!

●退任役員挨拶

●続・東西組合細見
◇シンギスユニオン

2008年度 日建協の活動 &本部役員

😓:今年の抱負

😊:みなさんへのメッセージ



あおもと けんご
青本 健吾
議長
シミズユニオン
事務

😓 厳しい時代だけど、あえて顔を上げて笑っていたい。魂を燃やして、あきらめず前へ前へ。

😊 厳しい時代だけど、あえて顔を上げて笑いましょう。建設マンの心意気で、あきらめず前へ前へ。



なかむら ゆうじ
中村 雄二
政策企画局次長
(労働条件)
ハザマユニオン
土木

😓 「めざすはワーク・ライフ・バランスの実現」この言葉を念頭に、走っていきます。

😊 私たちの労働条件向上にむけて、みなさんの思いを産業内外に強く訴えていきたいと思います。ぜひ、皆さんの声を聞かせてください。



てらうち さとし
寺内 哲
政策企画局次長
(産業政策)
戸田建設職員組合
建築

😓 組合員の皆さんの声を聞くことに力を入れたい。また、情報を組合員の皆さんにわかりやすく伝えたい。

😊 日建協活動が、組合員の皆さんのどんなことでもいいから、良い「きっかけ」になればと思います。



はらき ゆうこう
原木 祐幸
政策企画局
(労働条件)
三井住友建設
社員組合
事務

😓 建設産業が働き甲斐のある魅力的な産業になるよう、皆さんと力を合わせて行動していきたいと思います。

😊 労働条件の向上を目指し加盟組合の皆さんと一緒に行動し、仕事と生活の調和を目指していきましょう。



ふくしま れいじ
福島 玲司
政策企画局
(産業政策)
飛鳥建設労働組合
土木

😓 毎日楽しく仕事できて、産業全体が魅力的なものになるように、すべての活動に積極的に参加していきます。

😊 16年間の現場経験を生かして1年生としてがんばります。建設産業の未来に向けて、一緒に行動しましょう。



さとう みちお
佐藤 道男
副議長兼
政策企画局長
フジタ職員組合
土木

😓 建設産業で働く私たちの時短が少しでも進むよう、提言活動をはじめ産業内外へみなさんの意見を発信していくよう精一杯がんばります。

😊 世間ではワーク・ライフ・バランスの推進に向けた風が吹き始めています。時短をあきらめることなく一緒に活動していきましょう。



なす こうし
那須 功司
事務局長
西松建設職員組合
事務

😓 日建協をみなさんにより身近に感じてもらえるよう、わかりやすく、タイムリーに活動を紹介していきます。

😊 日建協には37,000人の仲間がいます。私たちの労働環境の整備と建設産業の魅力化にむけて、力をあわせて頑張りましょう！



はやし あつし
林 厚至
政策企画局次長
(労働条件)
ペンタユニオン
事務

😓 平日(ワーク)は私達の労働条件向上にむけて皆さんの声をもとに活動していきます。休日(ライフ)は少年サッカーのコーチとして地域に貢献していきます。

😊 このようにワークとライフの双方を充実させ、自らがワーク・ライフ・バランスを目指すことで、皆さんへワーク・ライフ・バランスの大切さを働きかけていきたいと思います。



加盟組合支援

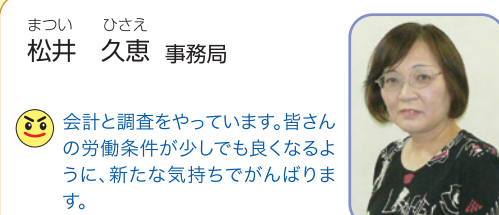
- 加盟組合が取り組んでいる活動に対する支援
 - ・中期時短方針2008の取り組みを中心とした所定外労働時間の削減
 - ・日建協賃金政策に基づく連帯活動による賃金交渉
 - ・日建協個別賃金水準の再設定



つかもと ふくじ
塚本 福二 事務局

😓 55年の歴史と伝統を受け継いでいけるよう頑張りたい。

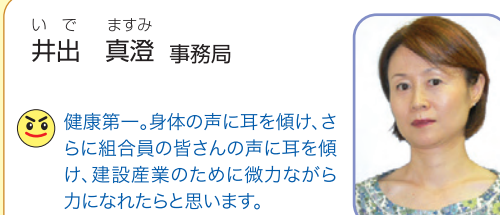
😊 「汝の価値に目覚むべし」(メーデー歌より)



まつい ひさえ
松井 久恵 事務局

😓 会計と調査をやっています。皆さんの労働条件が少しでも良くなるように、新たな気持ちでがんばります。

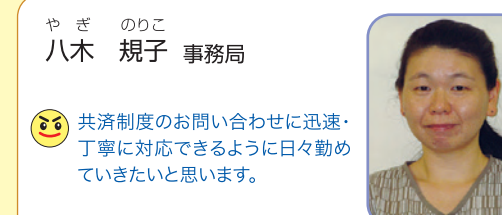
😊 コンパス、アンケート調査、産業政策の提言等の何かひとつでも触れて、日建協を身近に感じて下さい。



い で ますみ
井出 真澄 事務局

😓 健康第一。身体の声に耳を傾け、さらに組合員の皆さんの声に耳を傾け、建設産業のために微力ながら力になればと思います。

😊 先行きの見えない時代ですが、確かなイメージを強く抱き、みんなで協力して建設産業の未来を明るくしましょう。



や ぎ のりこ
八木 規子 事務局

😓 共済制度のお問い合わせに迅速・丁寧に対応できるように日々勤めていきたいと思います。

😊 日建協共済制度のパンフレットをご覧いただいておりますでしょうか？制度内容を理解してぜひ活用して下さい。



おおたしろ さとる
太田代 哲
事務局
(組織・広報)
鉄建建設職員組合
事務

😓 前例や慣習にとらわれずこだわらず、でも忘れずに。より高い頂を目指し今年一年の活動に全力を尽くします。

😊 どんなことでも語り合いましょ。難問は共に悩み、協力してやっつけましょう。そして一緒に笑いましょ。

WLBシャトルに乗って!!

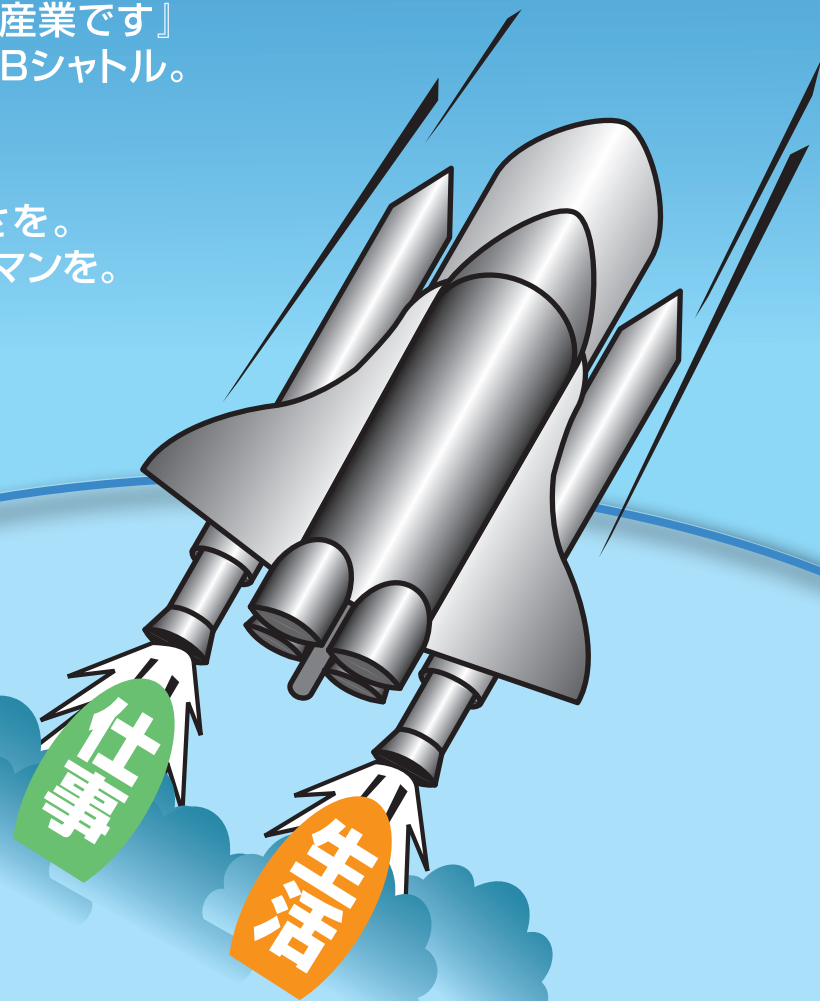
～次世代の若者が憧れる産業を目指そう～

良いものを造るためには、いつの時代もたくさんの汗と情熱が必要でした。ものづくりの先人達は、苦勞しながらも、心にいつもロマンを抱いてきました。

『建設産業はロマン産業です』
飛ばしましょう。WLBシャトル。

働く者に心の豊かさを。
建設産業に魅力とロマンを。

日建協です。



日建協の活動

時短意識を高めよう、
まずは『統一土曜閉所運動』

6月と11月の第2土曜日に建設産業全体で作業所を閉所する運動。統一して土曜閉所を行うことで産業全体で時短について考えるとともに、閉所しやすい環境を作っていく活動。

働いた分は休めます。
『作業所異動時休暇』

比較的休日を取得しやすい時期である作業所異動時や三大休暇(ゴールデンウィーク・夏季・年末年始)時に、土曜出勤等による休日の不足を補うことで年間休日日数を確保する活動。

『4週8休』の実現を!

民間建築工事において、休日取得が進まない背景には、不稼働日を含む休日を考慮しない最初から短い工期設定にあると考え、産業の関係者に対し適正工期での受発注を働きかける活動。

役割分担は大切です。
『無報酬業務の解消』

受発注者間の責任区分を明確にして、本来行わなくて良い契約外業務(無報酬業務)をなくすことで、長時間労働の解消を実現させる活動。

流した汗の結晶。
『賃金水準の適正化』

「賃金体系の確立」「賃金水準の向上」「賃金交渉の充実」を3つの柱として実施する、『老後の生活を見据えた、安定した生活を将来に渡って確保できる賃金水準』を目指した活動。

ものづくりのすばらしさ、伝えたい。
『出前講座』やっています!

将来の建設産業を担うであろう大学生を対象に、社会資本整備の重要性と、ものづくり産業である建設産業の魅力を伝える活動。

今こそ変えるとき。建設産業におけるワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

青本健吾 議長



日建協加盟組合員の皆様、連日の活動、大変ご苦勞様です。

7月31日、8月1日の第85回定期大会をもちまして、日建協の新たな年がスタートしました。

今期も引き続き「加盟組合単独では取り組む事ができない産業レベルの諸問題の解決」や「建設産業の魅力化」に向けた日建協活動を加盟組合と共に実施してまいります。

さて、一向に回復の兆しが見られないまま停滞している国内景気の煽りを受け、そこから誘発される「過度に熾烈な受注競争」や「建設産業従事者の人材不足」などの産業特有の深刻な問題に加えて、昨年来進行している未曾有の「原油価格・消費者物価の高騰」が、私たちの労働や生活を脅かしています。これらの問題の影響により、私たちが本来営むべき「労働のあり方」や、本来得られるべき「豊かな生活」を指し示す羅針盤は空転し、いまや、多くの労働者は自分達が将来に向けて進んでいくべき希望を失いつつあるのではないのでしょうか。

本来、労働組合活動の本質は、法的に保護された「労働者の権利」と、経営資源として企業活動の中核をなす「労働者の地位」を後ろ盾に、人として生きていくうえでの「満足」や「よろこび」を、いかにして獲得していくべきかという点にあります。しかしながら、昨今においては、その悲痛な叫びを経営に対して主張していくだけでは、事態が一向に解決していかないのが実態です。言い換えるならば、企業側にも自らが抱える人材に対して、その能力を最大限発揮できるような労働環境や、労働意欲の創出につながる豊かな生活を提供していけるだけの体力が枯渇してきているとも言えます。

では、私たちは、どこに向かっていけばよいのでしょうか。現状に甘んずるだけで泣き寝入りしたまま事態が変わるのをじっと待てばよいのでしょうか。誰に対して改善を叫べばよいのでしょうか。

日建協では、今期、すべての活動を通じた共通理念として「建設産業におけるワーク・ライフ・バランスの実現」を掲げています。「ワーク・ライフ・バランス」の実践とは、単に長時間労働を解消していく時短推進活動のみを意味するものではありません。今の自分の「働き方」と「ライフスタイル」を同時に見直す事により、双方から得られる充実感が最大限引き出せる状態を模索していく事にあります。

適度な「ワーク・ライフ・バランス」の度合いは各個人で異なる事から、どのように調和すべきかの選択や、それに向けた行動の最終的な拠り所は一人ひとりの意思と勇氣の中に宿ります。それぞれが、今の働き方や生活のあり方を見つめなおし、「どのようにしたら変われるのか」「自分にとっての有意義なバランスはいかなるものか」について考え、その実現に向けて主体的に行動していく事により、その効果が発揮されます。

しかしながら、前述のとおり現状の建設産業には「ワーク・ライフ・バランス」を選択していくだけの「ゆとり」もない硬直的かつ非常に制限の多い労働環境が存在します。したがって日建協は、労働環境の柔軟性を制限するものとして企業外に介在するさまざまな産業的問題の排除に取り組んでいくとともに、良好な職場環境の実現につながる各種制度の整備に向けた加盟組合内活動を支援していきます。そして、この活動を通じて一人でも多くの組合員の「ワーク・ライフ・バランス」の実現に向けた行動が実施しやすいような環境を整えていきたいと考えております。「ワーク・ライフ・バランス」の実現により生まれる一人ひとりの生活満足度の向上が、やがて労働意欲やモチベーションをもたらし、生産性の向上を通じた建設産業再生の起爆剤となることを期待しています。

今期も引き続き、日建協活動へのご支援をお願い申し上げます。

一人ひとりの力の結集を時代の風に乗せて。

日建協第85回定期大会

7月31日、8月1日の両日、東京（日暮里）のホテルラングウッドにおいて日建協第85回定期大会を開催しました。2008年度の日建協活動のスタートとなる本大会には加盟組合から代議員と多数の傍聴者が出席し、活動方針について活発な議論が交わされました。

私たちの手で魅力ある産業を築いていこう

青本議長は大会挨拶の中で、日建協議長としての一年目を「建設産業に従事する私たちの労働環境は依然として厳しい状況が続いているものの、産業の魅力化にむけた機運の高まりや、社会的なワーク・ライフ・バランスの理念の確立など、産業内外で労働環境改善にむけた兆しが見られた一年であった」と振り返るとともに「産業の構造的な問題改善にむけた活動においても、最終的なよりどころとなるのは一人ひとりの意識、情熱の結集である」と訴えました。

また、2008年度の活動にむけては、このような環境の変化が、日建協活動へ徐々に追い風となっている状況を踏まえ「仕事に対する喜びや意欲が見出せる労働環境や、誇り高さ労働者にふさわしい豊かな生活水準の確保にむけて、私たち一人ひとりの手で魅力ある職場、魅力ある産業を築いていこう」と参加者全員にむけて熱いメッセージが送られました。



大会の様子

●大会議長団



左：長澤代議員（佐藤工業職員組合）
右：山田代議員（りんかい日産建設職員組合）

●選挙管理委員長



森永代議員
（西松建設職員組合）

●分散会主査



義岡代議員
（フジタ職員組合）



小井代議員
（J Sユニオン）



小高代議員
（馬淵建設職員組合）

2007年度活動報告

産業の構造的な問題の改善にむけた行政や業界団体、加盟組合企業などへの働きかけ、加盟組合が連帯意識を持って進めた時短推進活動など、すべての活動において「直接対話」を基本としながら、精力的に取り組んできた2007年度の活動が報告されました。

2007年度の活動報告・決算報告については、出席代議員によって審議され、全員の賛成によって承認・可決されました。

新体制で2008年度の活動がスタート！

2008年度執行委員の選挙が行われ、新執行委員が選出されました。（2・3ページを参照）

引き続き11名の執行委員を代表して、新しく就任した佐藤副議長が「建設産業の労働環境の改善にむけて、みなさんとともに考えながら確かな決意を持って活動していきたい。一企業、一単組では解決が困難な課題に対して日建協という建設産業の仲間が集まる組織を通じて環境改善を進めながら、働き方を変えていこう。」と、2008年度の活動にむけた抱負と力強い決意を込めた挨拶を行いました。

この後、執行部より2008年度の活動方針の説明を行い、大会初日が終了しました。

大会2日目は3つの分散会に分かれて、前日に説明のあった活動方針に対する熱心な討議が行われたのち、全体会議にて2008年度の活動方針に関する議案と予算が審議され、満場一致にて可決・承認されました。また、今回決議された議案の中には、ワーク・ライフ・バランスの理念を取り入れた「中期時短方針2008」（8・9ページを参照）も含まれており、加盟組合が連帯意識を持って時短推進活動を展開していくことが確認されました。



議案の審議

●アシスタントのみなさん



内田舞さん
（ペンタユニオン）



武田三愛さん
（ペンタユニオン）



左 萩原由美子さん
（飛鳥建設労働組合）
右 萩原豊美さん
（銭高組労働組合）

名刺交換会

多数の来賓の方々と、加盟組合の執行部出席のもと、ペンタユニオン武田さんの司会により名刺交換会が開催されました。

2008年度の日建協活動スタートにあたっての青本議長の挨拶に引き続き、来賓の方々から激励を込めた祝辞を頂戴したのち、飛鳥建設労働組合の浅野委員長より「2008年度の日建協活動の目標の一つとして掲げた私たちのワーク・ライフ・バランスの実現を目指して、加盟組合が協力して頑張っていこう！」という力強い挨拶とともに乾杯の音頭がとられ、会は終始和やかな雰囲気の中で進められました。

会の途中で、退任役員を代表して川副副議長より、任期中に日建協活動でお世話になった多くの方々への感謝の気持ちと、今後の日建協への期待を込めたエールが送られました。

最後に2008年度の日建協執行委員が一人ずつ自己紹介と今年の抱負を述べたのち、那須事務局長より、退任役員に対する労いの言葉と2008年度の決意表明を行い、名刺交換会を閉会しました。

頑張っていこう。日建協！

「社会全体を覆っている閉塞感を一刻も早く払拭し、私たち一人ひとりが職場や社会で生き生きと生活できる環境を実現しなければなりません。組織が抱える問題についても、一つの組織のみでは解決できない問題が山積しています。連合とともに力をあわせて頑張っていきましょう。」

連合（日本労働組合総連合会）
團野 久茂 副事務局長



「建設産業は、技術者、技能者がいかに能力を発揮できるかによって生産性が大きく左右される、まさに人が支える産業であります。統一土曜閉所運動への取り組みや、時短アンケートの実施、また、昨年11月には女性アンケート実施により、女性の視点からの建設産業の魅力化にも注力されるなど、建設産業で働く人々の社会的、経済的地位の向上を通じて、建設産業全体の発展と魅力化を目指している日建協の活動に今後も期待しています。」
国土交通省総合政策局建設市場整備課
越智 英人 課長補佐



「適正工期の実現をめざして実施している提言活動や、大学生に建設業の魅力を伝えるための出前講座など、建設産業の魅力化にむけた日建協の活動に敬意を表します。建設産業にはいろいろな分野の課題、争点が結集されています。労使関係、安全衛生、賃金、労働時間、雇用の安定、能力開発、企業の中での働き方の見直しなど、厚生労働行政としても、制度の実効性の再確認とともに新たな制度化も含めて、強力に推進していきたいと考えています。」

厚生労働省職業安定局

志村 幸久 建設・港湾対策室長



「私たち組合員は心身の労働負担の増大や、長時間労働に耐えながら頑張っています。労働組合としては計画的な労働条件の改善にむけて取り組んでいます。働くものが力強い決意のもとに連携を深め、全員参加で魅力と活力ある建設産業の再興を目指し、ともに頑張っていきましょう」

建設連合 小川 末廣 中央執行委員長

「建設産労懇」を代表して小川氏が挨拶。他に来賓として

ご臨席いただいたのは（写真左から）

野崎 浩二 副議長（全電工労連）

宮城 新吾 議長（全国情報・通信・設備建設労働組合連合会）

大場 信秀 議長（道路建設産業労働組合協議会）



「国内経済の発展のためには、元気のいい業種が頑張っ牽引してだけでなく、厳しい環境にある産業の底上げが必要となっています。また、二極化が進む雇用環境の改善も必要であります。互いに力をあわせて広い視野を持った労働運動を展開し、さまざまな問題解決に取り組んでいきましょう。」

連合（日本労働組合総連合会）

龍井 葉二 総合局長



「下方傾向の経済・財政状況の影響を受け、建設産業は厳しい環境下にあり、我々も対応に努めておりますが、日建協におかれても、建設に携わる方々にとっての『魅力ある産業』『誇りある産業』を目指してますます活躍されることを期待しています。」

社団法人日本建設業団体連合会

長橋 和彦 常務理事 代読 和田 卓靖 副調査役



「前向きなインフラ整備とともに、過去の開発に起因する、環境面での負の遺産を改善していくためのインフラ整備の重要性も高まっています。建設産業は長く厳しい状況が続いていますが、インフラ整備の仲間として、前を見据えてともに努力していきましょう。」

財団法人リバーフロント整備センター

竹村 公太郎 理事長



「日建協とは連合のインフラ部会や建設、木材・森林産業の国際的な労働組合組織であるBWIの活動を通じてともに活動しています。林業も建設産業と同じく厳しい労働環境におかれています。労働者がしっかりと暮らしていける社会環境の形成にむけて、働く仲間として連携して頑張っていきましょう。」

全日本森林林業木材関連産業労働組合連合会

松永 善人 副執行委員長



中期時短方針2008

～ワーク・ライフ・バランスの実現と、心と体の健康のために～

Q1 「中期時短方針」って何ですか？

A1 日建協では、建設産業で働く私たちの所定外労働時間の削減にむけた時短推進活動を実施しています。時短推進の取り組みは、単年度で結果につなげることがなかなか難しいため、継続的に実施することが大切です。そこで、中期的な時短推進についての取り組み方針をたてることが必要となります。これが、中期時短方針です。

中期時短方針は、取り組み状況や社会情勢に応じて定期的に見直しを行っています。中期時短方針2008は昨年度1年間をかけて議論し、策定されました。

Q2 なぜ「中期時短方針2008」に取り組むのですか？ また取り組むことで、どのような効果があるのですか？

A2 1ヶ月当たりの所定外労働時間は日建協平均で60時間を超えるなど、私たちの長時間労働は常態化しています。このような長時間労働の現状は、私たちの心と体の健康を害する可能性が高く、早急に改善されなければなりません。また、ワーク・ライフ・バランスを実現するためにも「中期時短方針2008」に取り組むことが大切です。

では、「中期時短方針2008」に取り組むことで、私たちの労働環境は改善されるのでしょうか。答えは「YES」です。

私たちの長時間労働の大きな原因として建設産業の構造的な問題が考えられるなか、一個人、一企業のみで時短を進めることは困難だと思います。しかし、日建協加盟組合員3万7千人が一丸となって、この「中期時短方針2008」に取り組めば、必ず建設産業全体を変えることができるはずです。

「中期時短方針2008」の効果を生み出すのは、私たち自身だということを認識し、ともに取り組んでいきましょう。

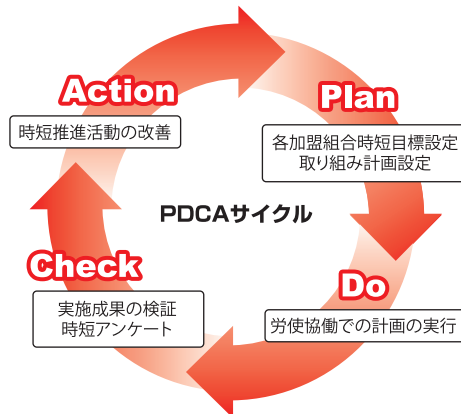
Q3 「中期時短方針2008」のポイントはどこですか？

A3 **ポイント1:**ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現を時短の目的として掲げました。「仕事と生活を調和させて、双方の充実感を高めていく」ためには、仕事に偏りすぎた「働き方の見直し」が必要です。

ポイント2:時短推進目標として明確な数値目標を掲げました。

ポイント3:「より使える方針」としました。今までの時短推進活動の好事例などを参考に時短推進活動のポイントを整理することで、「方針」というよりむしろ「活動計画書」に近いものとなっています。

ポイント4:時短推進活動のPDCAサイクルを明確に示しました。PDCAサイクルが示されたことで、継続性のある時短推進活動が実施しやすくなっています。



Q4 「中期時短方針2008」で掲げている日建協共通目標について教えてください。

A4 今回の時短方針では、時短推進活動に関してはじめて具体的な数値目標を掲げることとなりました。

具体的に数値目標を掲げることで目標が明確となり、全加盟組合が共通の認識のもと、より連帯した活動が期待されます。

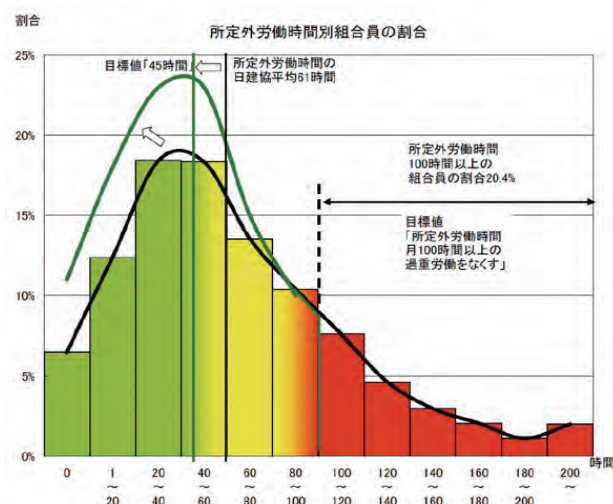
日建協共通目標

☆1: 所定外労働時間100時間以上の過重労働をなくす。

☆2: 所定外労働時間の日建協平均を月45時間以内にします。

日建協共通目標を図化したのが下のグラフです。このグラフは、1ヶ月の所定外労働時間別組合員の割合をあらわしています。また、グラフの色は厚生労働省が示した「労災補償に係る脳・心臓疾患の労災認定基準」にそって色分けしています。

共通目標☆1では、グラフの赤色の部分(健康障害リスクが高い)をなくすとしており、共通目標☆2では、イエローゾーンにある2007年度の日建協平均61時間をグリーンゾーン(45時間以内)まで削減することを目標としています。



昨年度、組合員の代表による時短専門委員会が開催され、わたしたちの中期的な時短方針が討議されました。そして第85回定期大会において「中期時短方針2008」が採択されました。

ご存知のかたもおられると思いますが、すでにこの方針は新聞発表が行われるなど、方針にもとづいた時短推進活動が動きだしています。

今月のCompassでは、中期時短方針の概要を説明していきます。方針の内容をよく理解していただき、日建協全加盟組合員で一丸となって取り組みましょう。

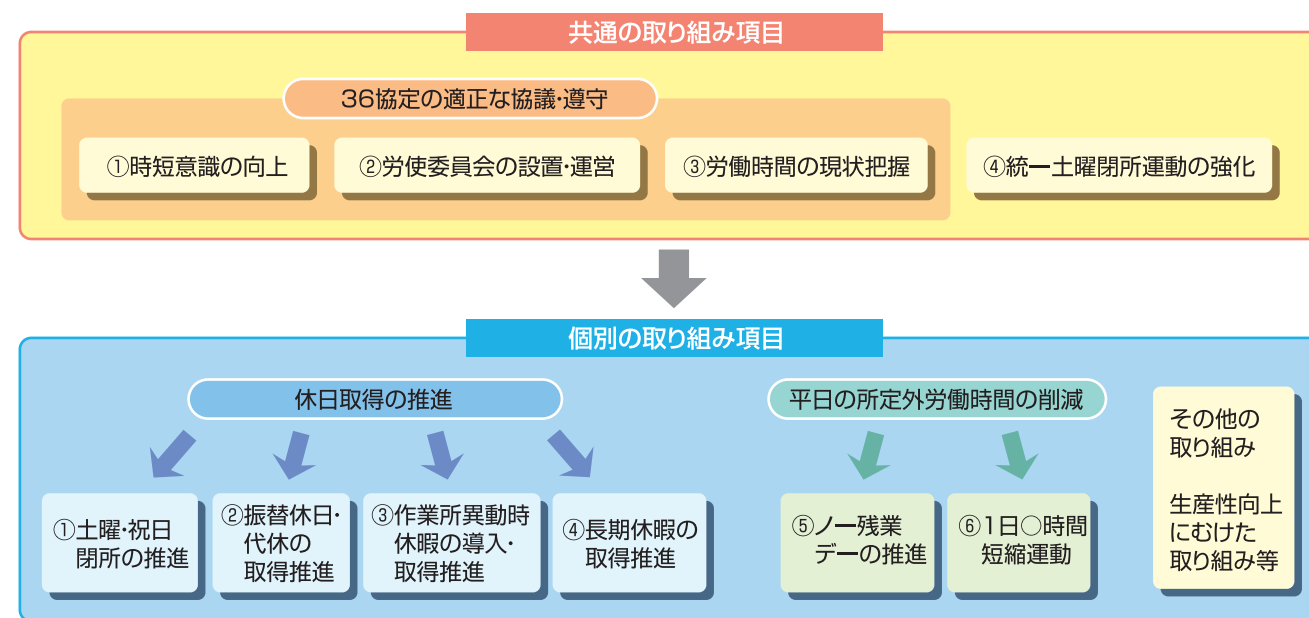
2008年8月20日(水) 日刊建設工業新聞



Q5 「日建協共通目標」の達成に向けて私たちは、何をすればよいのですか？

A5 中期時短方針では加盟組合が取り組む項目として【共通の取り組み項目】(全加盟組合が連帯して取り組む項目)と【個別の取り組み項目】(各加盟組合が選択して取り組む項目)について、具体的な取り組みのポイントを示しています。

各加盟組合で実施する時短推進活動に対し、組合員の皆さんが主体的に取り組むことが、共に建設産業で働く日建協組合員全員の労働環境の向上につながることを意識しながら、日々の活動を行って下さい。



Q6 「日建協共通目標」の達成に向けて日建協では、どのような活動を行うのですか？

組織内において:

①各加盟組合が取り組む時短推進活動の支援として啓蒙資料(ポスターやリーフレット)を作成し配布します。また、加盟組合が連帯して時短推進活動に取り組める

よう情報交換会や好事例データ等の収集を行います。

②加盟組合企業内での環境整備が進むよう会社訪問を通じて企業経営者へ方針の周知・理解を求めていきます。また統一土曜閉所運動や作業所異動時休暇などの個々の取り組みに対して協力要請を実施していきます。さらに、その他の時短促進につながる制度的な環境構築に対するお願いも行っていきます。

組織外において:

①産業内外に対し中期時短方針の説明を行い、私たちが「日建協共通目標の達成に向けて積極的に活動している」ことを訴えていくとともに協力を依頼していきます。②各加盟組合が単独では行うことが難しい行政、業界団体、発注者等にむけて時短推進に関する提言活動を実施していきます。具体的には「公共工事の無報酬業務の解消にむけて」「民間建築工事の『4週8休を含む不稼働日を考慮した工期設定』の実現にむけて」という2つの提言を実施します。



データ版ダウンロード先 <http://www.nikkenkyo.com>

中期時短方針2008に関するお問い合わせ先

日建協 政策企画局 林、中村、原木
TEL 03-5285-3870
FAX 03-5285-3879
e-mail nikkenkyo@nifty.com

契約内容の明確化と片務的体質の改善による労働時間の短縮にむけて

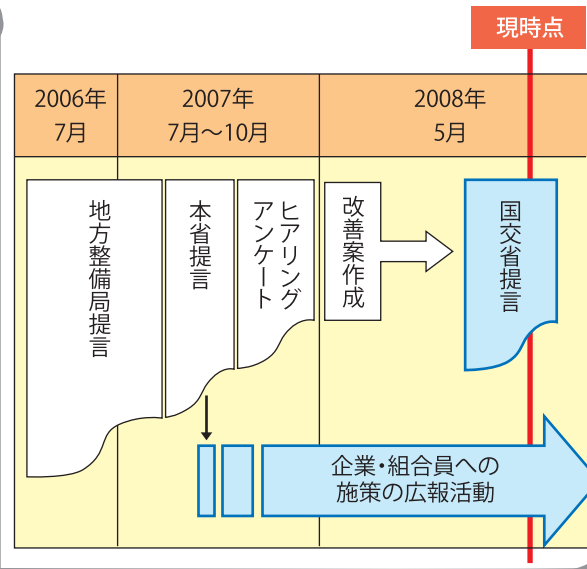
公共工事における無報酬業務を解消するために

作業所での仕事の中で、「無報酬業務※」が多くて、一日の労働時間が長くなっていると感じたことはありませんか??

※無報酬業務とは

- 本来発注者が行うべき業務が、受発注者間の片務的な関係性によって負わされる業務。
- 契約において受発注者間の責任区分が不明確なまま、その後も明確にされずに受注者の業務範囲とされた業務。

これまでの活動経緯



作業所に従事する組合員からの声により、「無報酬業務」が業務の中で大きなウェイトを占めている実態が確認されています。「無報酬業務」を行うことによって、本来費やす必要のない労働時間が積み上げられ、長時間労働となる可能性が非常に高いものと考えられることから、日建協では「無報酬業務」の解消を訴えていく提言活動を実施してきました。2006年度の提言活動から、国土交通省側でも「無報酬業務」の発生が受発注者間の良好な関係性、ひいては建設産業の発展の阻害要因に繋がることとして問題意識を持っていることがわかりました。それに対し発注者は「工事条件明示の徹底のための手引き」や「設計変更業務についてのガイドライン」等、以下に示すような具体的な施策を講じています。

そこで、昨年はみなさんにご協力いただき、以下の施策が作業所において実際にどれだけ活用されているのかを調べるため、アンケートおよびヒアリングを実施しました。

国交省の施策

- 条件明示の手引き
契約の前提条件を設計図書に明示する
- 設計照査ガイドライン
設計照査の責任範囲の明確化
- 設計変更ガイドライン
設計変更可否の具体例を明示
- 三者会議
- ワンダーレスポンス など

アンケート・ヒアリングから分かったこと

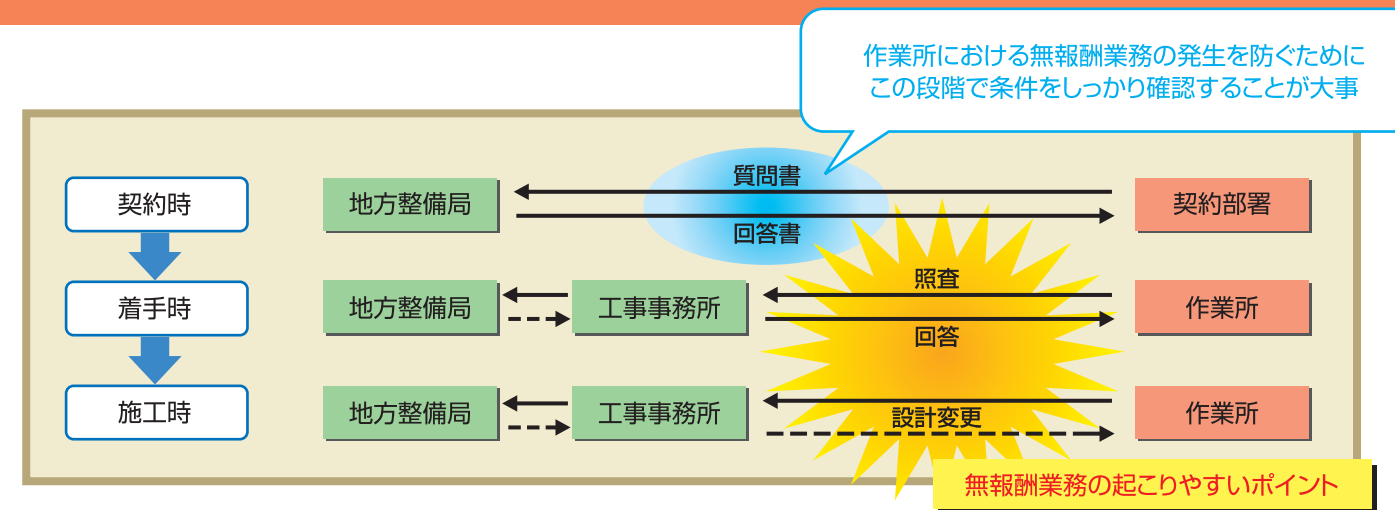
アンケート・ヒアリングから、まずは上記の施策内容の認知度がまだまだ低いことから、作業所において有効に活用できていないということがわかりました。また、本来施策の運用を推進していくべき立場である発注者側担当者の認知度の低さや、施策の有効活用に向けた発注者側からの広報が不十分なのではないかとの指摘もありました。しかしながら、この施策の適切な運用が受注者側での労働負荷の軽減につながるであろうとの組合員の期待が大きいこともわかりました。日建協では、①『発注者側担当者までの施策内容の浸透および発注者側からの積極的な広報』と、②『作業所で働く組合員の施策に対する認知度向上および積極的な活用』という2点に着眼して、今後「無報酬業務」の解消にむけ取り組んでいきたいと考えています。

発注者にむけた提言活動実施

(1)「改善提案書」の作成および提言活動

前述の①『発注者側担当者までの施策内容の浸透および発注者側からの積極的な広報』を働きかけていくために、加盟組合から募集したメンバーとともに作り上げた「契約内容の明確化に向けた提案」(改善提案書)を用いて、現在、各地方整備局に提言活動を実施しています。

提案書の中では、受発注者双方がもっとも目にするのは特



記仕様書など契約書類であるため、施策の活用についてそこに記載することや、三者会議、ワンダーレスポンスなどの対象を広げて欲しいといったことを提案しています。上図に示すとおり、無報酬業務は設計照査や設計変更のときに発生しやすいと考えられます。しかし、その発生を抑えるためにはその前段階である契約の時点で施工条件が明確になっていることが最も有効であると考えられます。したがって今回の改善提案書の中でも、特に条件明示については「受発注者ともに徹底して確認すること。そのツールとしてチェックリストなどを使ってはどうか。」といったことを強く働きかけています。

(2) 提言先の反応

8月現在、関東、北陸、近畿、四国の各地方整備局と北海道開発局を訪問しました。

そこでの意見として「条件明示の徹底」については「整備局のみならず工事事務所の職員に対しても、適切に行うよう指導している。」「契約前に受注者から条件について指摘してもらうことは、発注者側にとっても有効なのでどんどん声を上げてきて



地方整備局提言の様子

もらいたい。」「もし契約後不具合に気づいたなら、早めに照査で上げて欲しい。」といった意見がありました。

「設計変更等のガイドライン」については「今後、受注者側の意見もとり入れ順次良いものに改定していきたい。」「三者会議については、工事を円滑に進めていく上で効果を感じているので開催を申し出てもらいたい。」などの意見もありました。

上記提言先の反応や、最近の「全地方整備局で設計変更ガイドラインの作成」、「2009年度からの全直轄土木工事へのワンダーレスポンスの適用」などの動きから、今後契約内容の明確化にむけた社会的機運は高まっていくと考えます。

組合員にむけて

日建協では、前述の②『作業所で働く組合員の施策に対する認知度向上および積極的な活用』の一環として、組合員向けのリーフレットを作成しました。加盟組合執行部を通じて皆さん一人ひとりの手元に届くものと思われます。

このリーフレットの内容を通じて、まずは「条件明示」と「設計変更」に関する国土交通省の施策内容について理解していただきたいと思います。また、現状の業務をいま一度振りかえってみて、今まであたり前のように行ってきた業務が実は「無報酬業務」ではないだろうかと考えなおしてもらうためのきっかけとしていただければと考えます。

今抱えている業務について振りかえり、職場単位で「受注者としてすべきこと」「発注者がすべきこと」について話し合い、施策の有効活用を通じた「無報酬業務」の改善に向けて、積極的に声をあげていくことが作業所における労働環境の改善につながるものと考えます。

ワーク・ライフ・バランスをめざして時短に取り組もう! ～時短集会を開催～ (2008.05.29)

日建協は建設産労懇の仲間とともに、建設産業における時短推進活動の効果的な進め方や時短意識の高揚などを目的として時短集会を開催しました。

冒頭、建設産労懇の会長である日建協の青木議長より「適度な受注競争にむけての課題や人材の流出という産業構造の問題、労働環境整備の重要性、改善しようとする個人の意識が出しづらい環境など、建設産業で働く仲間として、ともに取り組むべき課題に対して共通認識を持ちながら、効果的な時短活動を実施していこう。」という強いメッセージが発信されました。

続いて東京(関東甲信越ブロック)仕事と生活の調和推進会議(※)で議長を務められた小倉一哉氏より、建設産業における長時間労働の実態について、他産業と比較したデータの分析結果なども交えながら「建設業におけるワーク・ライフ・バランスの推進のために」をテーマとした講演をいただきました。現状の短工期や低コストでの過当競争改善にむけては、発注者に対して理解を求める活動が必要であること、また、業界としても働く人々の健康管理や次世代の人材育成に注力すべきであることなど、講

演の中で、私たちが取り組んでいる活動の重要性をあらためて認識する場面も多々ありました。

今後も建設産労懇の仲間と協力しながら、建設産業における共通の課題解決にむけての取り組みを盛り上げていきたいと思ひます。

※東京(関東甲信越ブロック)仕事と生活の調和推進会議
労働者の健康と生活に配慮するとともに、多様な働き方に対応したものと改善するための労使による自主的取組を促進し、労働者一人ひとりの仕事と生活の調和を図ることなどを目的とした会議。日建協も発足当初から委員を派遣し、適正工期確保による土曜閉所の実現などを提唱してきた



時短集会の様子

5分以内の早期対応が尊い命を救う! ～心肺蘇生とAED講習会を開催～ (2008.05.29)

建設産労懇の仲間とともに、公共の施設を中心に設置が進んでいるAEDの使用方法和、心肺蘇生に関する講習会を開催しました。今回の講習会は、多くの組合員が人命救助に関する知識を習得することにより、万が一のときに役立てようという考えで、産業別労働組合としての社会貢献活動の一環として開催しました。

講師の方から、心配停止後5分以内での早期の対応が人命救助のポイントになること、救急の手順が分からずに、救える命が残念ながら救えなかったケースも多いというお話があり、参加者は緊張感を持って熱心に耳を傾けました。また、突然死の発生原因については循環器疾患によるものが多数あり、そのうちの多くが意外にも自宅で発生しているという説明がありました。「本日の講習を受講されたみなさんは、ご自身の体に変調をきたしたときに備えて、同居されている家族など、まずはまわりの方に本日学んだ心肺蘇生法を教えてください。」と講師の方が強調されました。万が一に遭遇したときに備えての人命救助の知識が、実はごく身近な人の命を救うためにも必要な知識であることを知り、



AEDの取り扱いに関する説明

心肺蘇生の実技講習

参加者にとって人命救助をより身近に感じながらの受講となりました。

今後も幅広く社会に貢献できる活動を企画していきたいと考えていますので、みなさんもぜひご参加ください。

※AEDの講習会は各地の消防局において無料で開講されています。詳しくは最寄りの消防局にお問い合わせください。

新たな門出に熱いエールを! ～オリエンタル白石職員組合合併調印式～ (2008.06.21)

本年7月1日より日建協加盟組合の新しい仲間として『オリエンタル白石職員組合』が誕生しました。

新組合発足に先立って、6月21日(土)10時30分より日建協議長立会いのもと、『オリエンタル白石職員組合合併調印式』が開催されました。当日は厳かなムードの中、合併がなされる両組合委員長双方の署名捺印により、合併に関する覚書と連帯の証である力強い握手が交わされました。滞りなく進められた調印の後、「この新しい組合を、今まで以上にすばらしい組合にしていきたいと思います!」という発声に応えるかのように歓喜の声が上がり、満場の拍手喝采とともに厳肅な雰囲気は、一変、祝いのムードに包ま

れることとなりました。

調印式に立ち会った日建協議長は祝辞の中で、「オリエンタル白石職員組合の今後の活動、そして日建協活動においても、みなさんの若さ溢れる力を存分に発揮してもらい、建設産業の魅力化、活性化のために励んでもらいたい。」と述べ、新しく誕生した加盟組合との今後の連帯の意をあらためて誓いました。

同日、新組合の三役を決める審議がなされ、新体制へのスムーズな移行に努めていくこととなります。加盟組合のみなさん、オリエンタル白石職員組合に対して熱いエールを贈りましょう!!



合併に関する覚書を交わされる柳田委員長(右)と國島委員長(左)

トピックス

ゼネコンの魅力を学生に! ～建築学科で初めての出前講座を開講～ (2008.06.13)

6月13日(金)東洋大学工学部建築学科にて、建設産業の実態や魅力を伝えるため、出前講座を実施しました。出前講座はこれまで土木系の学部を中心に行ってきましたが、今回は初めて建築系の学部で開催しました。また今回は講義に加えて直接対話で学生のゼネコンに対するイメージや就職意識を聞く場として意見交換会を開催しました。意見交換会には、厚生労働省職業安定局と国土交通省総合政策局の方々も参加され、学生の産業離れにいかに対応すべきか、一緒に学生と意見交換をしました。

出前講座には3年生と4年生の計106名の出席がありました。講座では、建設産業の構造、ゼネコンの組織体制、ゼネコンの技術力などについて説明した後、フジタ職組の池口氏に、自身の経験をもとにゼネコンに入ったらどのような事を担当するのかについて、また、仕事の充実感・達成感を伝えてもらいました。その際のアンケートによると、就職先を決めるに当たりこれまでの土木系の学生に比べ「労働時間」や「仕事の内容」を重視する傾向が見えしました。

意見交換会には出前講座出席者のうち24名が参加しました。今回参加した学生たちの中には、「ゼネコンの仕事は顧客との距離が離れていると感じており、同じ建設産業でもハウスメーカー



講座の様子

東洋大意見交換会

や不動産業などを志望する」という人が多くいました。また、ゼネコンに対して、「就職に際し、ゼネコンの実態が分かるような情報を発信してほしい。」「休日や、賃金などの労働条件について、せめて我慢できる範囲までは改善してほしい。」といった意見が出ました。厚生労働省からは、インターンシップでの研修内容に対する質問があったほか、産業で働く若者の作文集などが紹介されました。

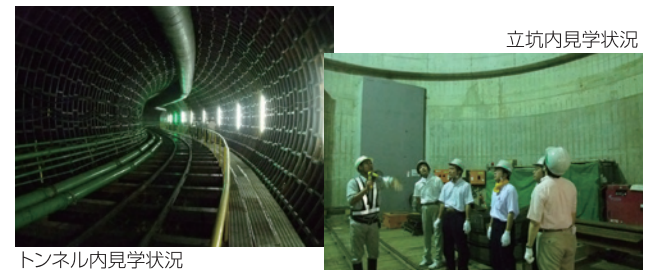
日建協では、今後も地道に学生に対し産業で働く魅力を伝えていくとともに、行政や業界団体へ魅力向上に向け協働での活動を働きかけていく予定です。

スケールの大きさに感動!! ～金属労協が参加した100万人の市民現場見学会～ (2008.07.22)

日建協は、(社)日本土木工業協会(土工協)の主催する「100万人の市民現場見学会」に協力しています。今回見学したのは、千葉市下水道局が発注する「雨水幹線整備事業」の現場で、間・東洋・飛鳥・京葉工管JVが施工しています。この施設は、集中豪雨の際、一時的に雨水を貯めて洪水を防ぐ機能を持ち、平成21年の完成を目指しています。全日本金属産業労働組合協議会(金属労協)の役員ら12名が参加しました。

「金属労協」は、日本の金属産業労働者を網羅する産業別労働組合組織で、5産別(自動車総連、電機連合、JAM、基幹労連、全電線)により構成され、同じ「ものづくり産業」の仲間として、また私たちの発注者となりうる方々に、建設産業が社会資本整備において果たす役割について理解してもらうことを目的に開催しました。

はじめに主催者より、「災害に備えるための非常に重要な施設を建設しているということを、みなさんにご理解いただきたい。」との言葉がありました。続いて、日建協の川副副議長が、「この機会を通じて、より良い社会資本を提供するために真剣に取り組んでいる姿を見ていただき、それを金属労協の加盟組合の方々に伝えていただきたい。」と挨拶しました。



トンネル内見学状況

見学者は、深さ38メートルの発進立坑をエレベーターで降り、シールドマシンで掘削中のトンネルの最先端部までの道のり(片道2.4キロ、往復5キロ弱)を実際に歩いて見学しました。参加者からは、「多額な税金が使われているが、必要性を聞くと納得できる」との声や「命を懸けて国民の生活を支えている産業なので、もっと正当な評価を受けても良いのではないか」などの感想がありました。また、現場の安全面や作業員の労働環境、建設コストに関する質問などが多く出され、JV担当者からの回答に熱心に耳を傾けていました。

退任役員のみなさん、お疲れさまでした！

7月31日の定期大会をもちまして、4名の日建協本部役員が退任されました。

建設産業の魅力化という大きな目標にむかって、すべての活動に全力で取り組まれたみなさんの真摯な姿勢をしっかりと継承し、2008年度の本部役員も精一杯頑張ります。

これからは日建協での活動を存分にいかして、それぞれの職場環境の向上や魅力化にむけた取り組みにも、リーダーシップを発揮されることをご期待しています。本当にお疲れさまでした。



さわだ ゆきお
澤田 幸雄 前副議長兼政策企画局長 飛鳥建設労働組合

日建協は、想いを実現させたいという強い意志と行動力が伴えば、それを具現化することが可能な組織でした。また、その後ろ盾となるのが、組合員から寄せられる叱咤激励のメッセージや生の声であり、今後も建設産業を魅力ある産業に変えていくためにも、多くの意見を頂きたいと思います。また、新執行部の方々には、55年という長い歴史を持つ日建協イズムを継承しつつも、過去にとらわれることなく、自由な発想で活動に励んでいただきたいと思います。



かわさえ ゆういち
川副 洋一 前副議長兼政策企画局長 三井住友建設社員組合

加盟組合員の皆様、3年間、大変お世話になりました。この3年間は、皆様の現場の生の声を形(提言書)に変え行政、発注者の方々に対して意見発信をしてきました。この3年間で皆様が実感できるほどの大きな変化は起こせませんでした。皆様の生の声を伝えたことで、着実に行政、発注者の方々の考え方にも変化が起きてきています。今後も日建協は皆様の声の代弁者として産業界内外に意見発信を行ってまいりますので、時短は無理と諦めないで、皆様の仕事と生活のバランスがとれた満足した生活を目指し共に頑張っていきたいと思います。



かつせ もとひこ
勝瀬 宗彦 前事務局長 奥村組職員組合

3年間大変お世話になりました。3年前を思い出すとなによりも最初に思い浮かぶのが、日建協という組織の大きさと長年にわたりさまざまな方々が築いてこられた伝統の凄さでした。また、これまで自身の出身単組での組合活動が常識と思っていたことが他の加盟組合ごとと考え方が異なり、産業界別の組合活動の難しさを痛感しました。その反面、このような大きな組織が一つになり、行動することで想像を超える力となることも実感できた3年間でもありました。今後も結成55周年という節目を迎え、益々大きな力へと行って行くことを切望します。



きっかわ かずひろ
吉川 万博 前政策企画局次長 東洋建設職員労働組合

労働条件を担当し、時短や賃金水準の向上に取り組んできました。2年間ではありましたが、組合員の皆様には本当にお世話になりました。また、業務に忙しいなか時短アンケート等に協力していただいて本当にありがとうございました。こうしたアンケートを通じて、日建協は加盟組合の組合員の皆様の支えによって成り立っていることを痛切に感じてきました。どうぞ今後とも日建協活動へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

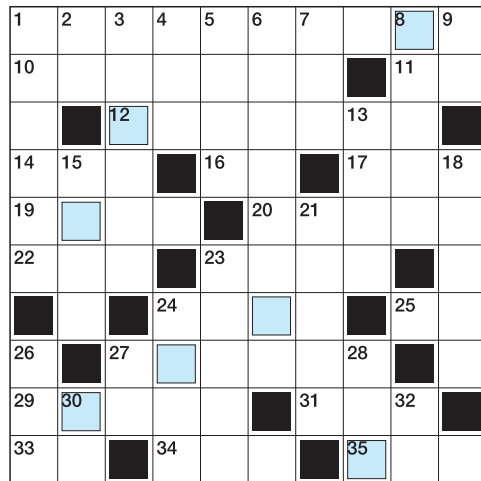
また新執行部の方々は、青木議長のもと一致団結して活動に邁進されることと思います。期待しています!!頑張ってください。

クロスワードタイム

9月に入り暑さもだいぶ和らいで、日の暮れるのもすいぶん早くまりました。耳を澄ますと秋の足音も聞こえてきそうですね。食欲の秋、スポーツの秋、映画鑑賞に読書など、色々な秋の楽しみ方がありますが、Compassオリジナルのクロスワードなどどうでしょうか。二重枠の言葉を並び替えると答えが出ます。答え、郵便番号、住所、氏名、組合名、Compassの感想を記入し、はがきかメールでご応募ください。

■メ切:9月30日(火) ■宛先:〒169-0075 新宿区高田馬場1-31-16 守山ビル3階 日建協クロスワード係 (Mailはこちらへnikkenkyo@nifty.com)

ヒント: 1954(昭和29)年12月が誕生日!



ヨコのカギ

1. サトウハチロー作詞の秋をテーマにした童謡です。
10. マットや鉄棒、跳び箱などを使う体操のことです。
11. 薬などを一面に塗りつけること。
12. 音楽で、二(D)音を主音とする長調です。
14. スペイン語やポルトガル語が用いられる中南米の総称。「○○○アメリカ」。
16. イタリア語で数字の1を意味するカードゲームです。
17. 主に東海道・山陽新幹線で各駅停車の特急列車の愛称。
19. 道具や器具、用具などのひとそろい。
20. 苦しさや辛さを、何かで紛らわして忘れること。
22. 飼ひ鳥が巣を作って、ひなを育てること。
23. 歯のない哺乳動物で、好物のアリをとるのに60センチ以上も舌を伸ばします。
24. 多くの中から、すぐれたものをより抜くこと。えりぬき。よりぬき。
25. 高くそびえ立つ装飾的な建築物です。
27. 気持ちや考え、情報などを関係のある人に伝える役割。
29. 屋外で行うスポーツやレジャーの総称です。
31. 航空機を使って、人や物を運ぶことです。
33. 腰をかけるための家具。
34. 巻き貝のカラのようにぐるぐる回っているもの。○○○階段。
35. 前足や首が非常に長く、高木の若芽を食べる哺乳動物。

タテのカギ

1. タマネギと鶏肉を使った炒めご飯、ケチャップで味付けします。
2. 海に棲む軟体動物で、十本の足があります。
3. 今更のように、その重要性を理解すること。
4. 敵に追われると悪臭を放つ、尾の太い小動物です。
5. いいものと思い、いつもそれを使うこと。
6. 鳥などが、どんなに遠く離れた所からも、自分の巣に帰ってくる力。
7. 親子兄弟など、ごく親しい血縁関係にある人です。
8. 身は練り物などに、卵はたらこや明太子に加工される魚。「ス○○○○」。
9. 非常に体力があり、疲れを知らない様子。
13. 物価・相場・計数などで目立った変動のない状態が続くこと。
15. 鉄製の湯沸かし。
18. 北海道にある湖で、世界有数の透明度を誇ります。
21. 目的達成のために、相手をおとしめるはかりごと。
23. 緊張したときなどに出る、ねばねばした汗。
24. ユーラシア大陸や北アメリカの北極周辺に広がる凍結した荒野のことです。
26. 精神を集中して、物事にあたるとき気持ち、または掛け声。
27. 「○○○主義」「○○○ル食品」「○○○リック」。
28. 無色・無臭で、地球全体をおおっている気体。
30. 穀物や餅を杵でつくづくの使う道具です。
32. すらりとした枝の先に、六枚の花びらがある大形の花を咲かせます。

No.777クロスワード 正解と当選

デ	ッ	チ	ア	ゲ	■	ノ	ド	グ	ロ
カ	■	マ	ル	コ	ポ	ー	ロ	■	サ
ル	ス	タ	ク	■	イ	モ	■	イン	
ト	ネ	■	ス	カ	■	ア	テ	■	ジ
■	カ	タ	ガ	ワ	リ	■	ト	ザ	ン
ヤ	ジ	キ	タ	■	ヤ	ワ	ラ	■	■
シ	リ	ツ	■	エ	ク	ボ	■	タ	ナ
オ	■	ケ	ム	リ	■	ク	サ	モ	チ
マ	ヨ	■	ゲ	■	ヨ	■	ト	ツ	グ
ス	イ	■	イ	ホ	ウ	コ	ウ	■	ロ

もや 船い

多くの興奮と感動を与えてくれた北京オリンピックが閉幕しました。女子ソフトボールの上野投手の熱投や、平泳ぎの北島選手の堂々たる連続2冠、千載一遇のチャンスを見事ものにした陸上男子400mリレーなど、また惜しくもメダルを逃した競技においても、まさに4年に1度のスポーツの祭典にふさわしい熱戦が繰り広げられ、テレビの前に釘付けになった方も多いのではないのでしょうか。

自身が慣れ親しんだ競技には特に力が入りますが、なにげなく観戦していた競技でも、目の丸を背負うという想像を絶する重圧と闘いながら目標にむかって全力を出す選手を応援しているうちに、次第に競技そのものに対する興味は重要でなくなり、頑張っている人を純粋に応援する気持ちに変化していることもありました。そんなオリンピック選手の懸命な姿を応援しながら、ご自身を鼓舞させていた方もおられたのではないのでしょうか。

答えは「土曜閉所(ドYOUヘイショ)」でした。

たくさんのご応募ありがとうございました。次の方が当選されましたので、追ってクオカードをお送りします。

芋生敏彦(アサヌマ)、金子堅太郎・山田高嘉(安藤)、恒川 眞・宮本正典(小田急)、大原紀子・植田祥子(鴻池)、近藤 剛(国土コミュ)、宮原正憲(佐藤)、大相結香・小澤朋子(銭高)、山崎明彦・朝倉尚哉・西田敏憲(大豊)、稲田 満(東洋)、小堀和伸・内海 愛・木下 達・高橋健治(戸田)、森下優子(中山)、小林健吾(西松)、峯 純子(ピーエス三菱)、小林秀如(ペンタ)、安井敏夫(松村)、田中健次・小林 隆(馬淵)、菅 昌洋(丸彦)、山本有香(三井住友)、松川武靖(名工)、富永祐子(横河) <敬称略>

編集後記

まもなく11月の統一土曜閉所運動のポスターが全国のみなさんのもとに届きます。今回のCompassの表紙にも統一土曜閉所運動のポスターの図柄を採用していますが、イラストは、統一土曜閉所により家族と一緒に過ごす時間を確保するために、取り組みチェックシートを活用しながら、工程を含めた事前準備を行っている様子を表しています。

また、前回6月のポスターには日建協が委員として参加していた「東京(関東甲信越ブロック)仕事と生活の調和推進会議」の名称を掲載しましたが、今回、新たに「東海・北陸ブロック」と「近畿ブロック」にも統一土曜閉所運動がワークライフ・バランスの推進につながることを理解していただき、掲載の了解をいただきました。加えて、内閣府が国民のワークライフ・バランスの気運を高めることを目的に行っている「『カエル!』ジャパン」キャンペーン」のシンボルマークも採用しています。

統一土曜閉所運動は日建協以外の組織の参加も少しずつ増えており、建設産業全体の活動にむけて着実に広がっています。

統一土曜閉所運動をきっかけに、私たちのワーク・ライフ・バランスを考えてみませんか?

意欲を持って働ける環境づくりを!

シミズユニオン

越中富山で大工をしていた創業者の初代清水喜助は、1804年に江戸にのぼり、神田鍛冶町で「清水屋」という店を構えて名を上げました。二代目喜助の時代には、我が国初の西洋ホテルである「築地ホテル」、「第一国立銀行」など多くの擬洋風建築を手がけ、200年以上引き継がれている建築の名門としての礎が着々と築き上げられていきました。1937年に清水組となり、1948年には現在の社名の清水建設㈱に変更されています。

現在、本社と組合の本部事務所は港区芝浦にある同社施工の高層ビルの中にあります。都会のオフィスビル群の中でも少し落ち着いた雰囲気のある、シミズユニオンの事務所を訪問しました。

- 設立：1946年2月24日
- 組合員数：4,800名(2008年8月現在)
- 支部：8支部
- 本部執行委員数：9名
- 本部執行委員会：本部執行委員と全国の各支部長が集まり、年に7回程度

組合として現在特に力を入れて取り組んでいる、また取り組みたいと考えている課題や目標があったら教えてください。

本年度のテーマである「意欲を持って働ける環境づくり」をベースに活動方針を策定し、取組みを行っています。具体的には、制度対策活動(評価制度、私有車使用、社宅使用料、諸制度・手当のフォロー)労働対策活動(休日休暇取得、時間外労働の削減)広報教育活動(HPの充実、職場会、オルグ活動)を行っています。

組合員とのコミュニケーション、意見の収集はどのようになっていますか?

先日から、委員長と本部役員が全国の支部をまわる委員長オルグが始まりました。会社の経営陣の考えや将来にむけてのビジョン、また、組合員の頑張りをどのように感じているのかなど、細部までは現場の最前線で活躍する組合員に伝わりにくいものであり、それを伝えることも私たちの重要な役目だと考えています。また、組合員との直接対話により収集した問題点や改善提案をもとに、支店幹部との意見交換を行っています。組合員からは、自分自身の健康状態や、職場環境に対する改善要望はなかなか上げづらく、声を出す時点では黄信号というケースが多いものです。できるだけ早い段階でそういった不安を摘んであげたいので、現場の組合員の様子を支店幹部と話すときに伝えています。



左：伊地知書記長 右：坂谷内委員長

建設産業の魅力化にむけて何が必要だと考えますか？ また、魅力化にむけて取り組まれている活動はありますか。

これまで当社は、まじめにコツコツやっていたればきちんと社会も評価してくれるだろうという姿勢で、特にPRもしてきませんでした。しかし、現在、会社側は「社会資本整備としてこんなに素晴らしいことをやっている」ということを外部にむけて積極的に広報しています。また、内部にむけては、「ものづくり推進室」を発足させ、現場がものづくりに専念でき、達成感を実感できる職場環境の整備に取り組んでいます。このような魅力化にむけた改革の流れの中で、会社側の「組合員の声を聴いていこう」という姿勢も以前より強まっており、組合としても、会社との信頼関係の中、積極的に協議・交渉に臨んでいます。また、組合員にも「ものづくり」という原点をあらためて考えられるように広報しています。またそういった意識がなかなか届きにくい、見出しにくい現場に対しても、しっかりと目を向けてラインケアに努めています。



左：伊藤副委員長 右：高木副書記長兼運営部長

みなさんが考えるワーク・ライフ・バランスとは？

休むために頑張ること、段取りよく、効率よく仕事ができるように工夫することも必要ではないでしょうか。生活が充実していれば仕事もやる気がでるでしょう。しかし一口にバランスと言っても、時間なのか、意識なのか、お金なのかは難しいものです。また、ある人にとって

「自分は仕事が一番だ。仕事だけをやっていれば良い」という考えもそれが個人にとってのバランスであれば、それも良いと思いますが、「仕事が一番でなければダメだ」という雰囲気は変えていく必要があると思います。

他の日建協加盟組合にひとこと。

景気後退の兆しが見える中、ますます厳しい状況下に置かれている建設産業ですが、この逆風にめげず、建設産業を魅力ある産業とすべく、協力し合って取り組んでいきましょう。

自単組の組合員に熱いメッセージをお願いします!

会社は、社外へのコーポレートメッセージ、ものづくり推進、労働時間管理、休暇制度の見直しなど今、変わろうとしています。過去の慣習、考えに固執することなく、自分にとって「働くこと」について考えるいい機会ではないでしょうか。誰かが変えてくれるだろうという消極的な姿勢では何も変わりません。組合員一人ひとりが「今こそ変わる時」という認識のもとで積極的に考え、行動してこそ変革は可能となるのです。

今年度の活動方針に対する執行部の考えを熱く語っていただきました。会社側が魅力ある職場環境の形成にむけてこれまで以上に組合員の声に耳を傾けている今こそ、労使で十分に話し合いながら、会社をより良い方向に導いていくという強い決意が感じられました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございます。



前列左から山岸給与対策部長、坂谷内委員長、鈴木副委員長、元山労働対策部長
後列左から高木副書記長兼運営部長、伊地知書記長、伊藤副委員長、木村制度対策部長



青本副委員長
(日建協派遣)